

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成22年10月14日 (2010.10.14)

【公開番号】特開2006-232606(P2006-232606A)

【公開日】平成18年9月7日 (2006.9.7)

【年通号数】公開・登録公報2006-035

【出願番号】特願2005-48975(P2005-48975)

【国際特許分類】

C 0 1 G 1/02 (2006.01)

B 8 2 B 1/00 (2006.01)

C 0 1 B 13/32 (2006.01)

C 0 1 G 3/02 (2006.01)

C 0 1 G 45/02 (2006.01)

【F I】

C 0 1 G 1/02

B 8 2 B 1/00

C 0 1 B 13/32

C 0 1 G 3/02

C 0 1 G 45/02

【手続補正書】

【提出日】平成22年8月31日 (2010.8.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

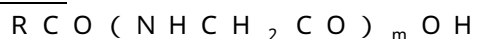
【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

水中で、一般式



(式中、R は炭素数 6 ～ 18 の炭化水素基、m は 1 ～ 3 の整数を表す。) で表わされるペプチド脂質と遷移金属イオンとを共存させ、形成した繊維状物質を 300 ～ 600 で焼結することにより遷移金属酸化物ナノチューブを製造する方法。

【請求項 2】

R が直鎖炭化水素である請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記遷移金属が、 ^{21}Sc から ^{30}Zn まで、 ^{39}Y から ^{48}Cd まで、及び ^{57}La から ^{80}Hg までのいずれかの金属、又はこれらの混合である請求項 1 又は 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記遷移金属酸化物ナノチューブが、平均直径約 10 ～ 1000 nm、平均長さ約 1 ～ 100 μm であって、遷移金属酸化物から成る請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載の方法。